

時は流れて

昨年から**日本製鉄**が買収しようとして話題になっていた「**US スチール**」社の画像として決まって登場する工場のたたずまいに、私は何故か懐かしい光景に思え、気になっておりましたが、ついに思い出すこと



ができました！1978年のアカデミー賞作品「**ディア・ハンター**」（マイケル・チミノ監督、ロバート・デ・ニーロ主演）の舞台にもなった現場です。映画に登場する鉄鋼労働者（故郷を離れベトナム戦争に従軍することになる）の主人公たちは、「US スチール」とおぼしきペンシルベニアにある製鉄所の作業員。いわば「**普通のアメリカ**」、「**正直で鷹揚なアメリカ**」の心の故郷のような田舎町の青春物語でした。ちなみに、同地は現在のトランプ政権のナンバー2であるヴァンス副大統領が自身の青春を回想した「**ヒルビリー・エレジー**」でも描かれたラストベルトの労働者の町でもあります。ただ、前者の私たちの良き時代のアメリカの理解が、その後の新自由主義の波に翻弄されて、理想も希望も洗い流されてしまう2000年代以降の



「**分断のアメリカ**」を象徴するような作品のようです。ところで、トランプ大統領はノーベル平和賞の受賞に強い意欲を示しており、イスラエルなど7か国の首脳とともに、「世界がトランプ氏のノーベル平和賞の受賞を求めている。トランプ氏は平和の大統領だ」と大統領官邸自体も有頂天のようです。これに対しては、**トランプ氏に憤るのではなく、各国はそれぞれの国益のため、ここまでわかりやすい人間であることはむしろ喜ぶべきなのだろう…と、指摘する識者も多いように思われます。**